2015

Next30 産学フォーラム

報告書

2016 年 6 月

一般社団法人中部経済連合会

はじめに

Next30 産学フォーラムは、次の 30 年（Next 30 Years）を担う若手のネットワーク作りを目的とした産学の異分野・異業種交流会です。中経連では、2011 年 10 月より大学に入会いただき、より緊密な産業界と学界の関係を構築すべく、2012 年 4 月に産学連携懇談会を立ち上げると同時に、「Next30 産学フォーラム」を開始しました。

従来の産業界と学界との繋がりとしては、学会やマッチングイベント等を契機とした共同研究などがありますが、目的が限定されるために関係が単発的になりがちであり、新しい連携の芽を育みにくい側面がありました。また、昨今の人材育成の議論においては、多様な価値観を受け入れられるグローバル人材育成の重要性が指摘されていますが、現状の若手研究者・企業人は、自分の研究分野や職務に没頭しがちであり、外国はおろか、地域の優れた人材との出会いや、多様な思考を受け入れる機会に乏しいのが実態です。

そこで、「Next30 産学フォーラム」では“人的ネットワークづくり”と“多様な価値観に対する気づきの場づくり”を目的に産学の多様な話題を提供しながら継続的に開催し、即物的な成果よりも、先ずは相互理解を深め、新たな発想や啓発の機会を作ることに主眼を置いて活動を進めてきました。４年目となる 2015 年度は、参加大学数は前年度の 17 校から 18 校と拡大し、多様な研究分野の講師陣からご講演頂いた他、グループディスカッションやワークショップによる参加者同士の会話・交流を促す仕掛けづくり、見学会の開催等、参加者に多くの刺激を感じてもらい、かつ見聞を広めてもらう企画を実施してきました。

本報はこの１年の概要を記録したものであります。産学連携に携わる方々にとって、一つの参考としてご覧頂ければ幸いです。

2016 年６月
一般社団法人　中部経済連合会

目次

１．体制・組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

２．フォーラム実施概要

１）参加者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

２）構成（講演、話題提供および企画イベント）・・・・・・・・・・・5

３）フォーラムの雰囲気・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

３．参加者の声（アンケート結果まとめ）

１）参加のきっかけ、目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

２）講演への意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

３）ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ･ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟへの意見・・・・・・・・・・・・・・・11

４）話題提供(大学・企業)への意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

５）見学会への意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

６）その他自由意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

７）運営面の改善・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

８）満足度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

４．フォーラム活動から派生した事例・・・・・・・・・・・・・・・・・21

５．総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

１．体制・組織

2015 年度は会員となって頂いている 18 大学より、文科系・理科系のバランスを考慮しながら、産学交流に関心の高い新進気鋭の先生を１名ずつご推薦いただき、以下のコアメンバーを組織した。隔月で奇数月にフォーラムを開催し、フォーラムの運営・企画について調整する準備会をフォーラム翌月（偶数月）に開催し、アンケート等で振り返り、改善案を次回のフォーラムに反映させる仕組みとした。

表１　2015 年度コアメンバー

大学	所属	役職	氏名
愛知県立芸術大学	美術学部 デザイン専攻	教授	柴﨑　幸次
愛知県立大学	外国語学部 中国学科	准教授	鈴木　　隆
愛知大学	法学部	助教	西本　　寛
岐阜大学	工学部 電気電子・情報工学科応用物理コース	准教授	新田　高洋
金城学院大学	生活環境学部 食環境栄養学科	講師	清水　彩子
大同大学	情報学部総合情報学科 経営情報専攻	准教授	小澤　茂樹
中京大学	スポーツ科学部 スポーツ教育学科	講師	和光　理奈
中部大学	応用生物学部 環境生物科学科	講師	長谷川 浩一
豊橋技術科学大学	環境・生命工学系	助教	広瀬　　侑
名古屋学院大学	経済学部	准教授	黒田　知宏
名古屋経済大学	経営学部	准教授	徐　　誠敏
名古屋工業大学	工学研究科 おもひ領域	准教授	佐藤　　尚
名古屋市立大学	経済学研究科	講師	山本　奈央
名古屋大学	未来社会創造機構	特任准教授	金森　　亮
南山大学	理工学部 システム数理学科	准教授	小市　俊悟
名城大学	理工学部 応用化学科	助教	池邉 由美子

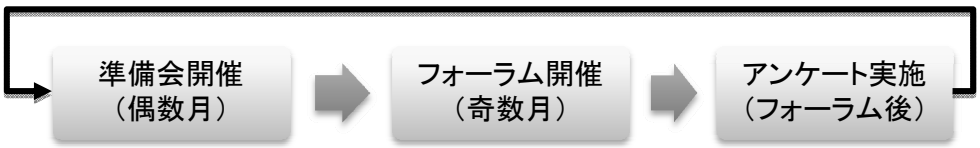


図１　活動のステップ

表２　2015 年度活動実績

	第 19 回	第 20 回	第 21 回	第 22 回	第 23 回	第 24 回
準備会	4/14	6/16	8/21	10/6	12/15	2/15
フォーラム	5/27	7/28	9/25	11/26	1/28	3/23
アンケート	5/28	7/29	9/28	11/26	1/29	3/24

２．フォーラム実施概要

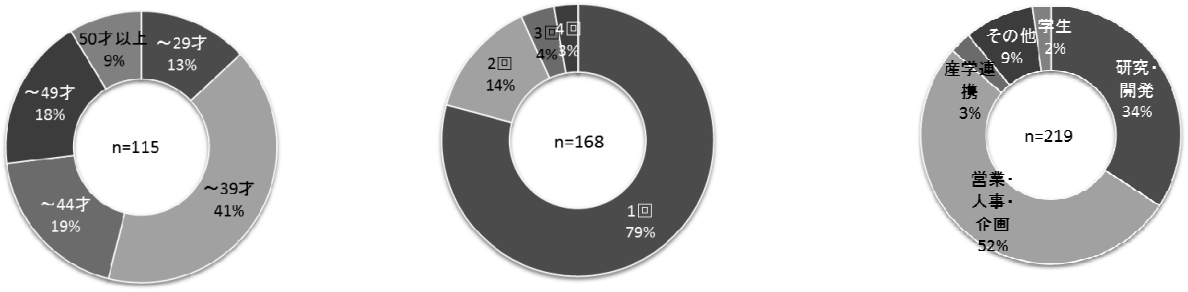
１）参加者

フォーラムは計６回開催し、１回あたり平均 36.5 名、延べ 219 名が参加した。参加者は 40 歳代前後が中心で、営業・人事・企画や、研究・開発等を中心に様々な職種の方々に参加頂いた。初参加の割合は平均で 34%であり、約２割の方は複数回参加している。

表３　参加者概要

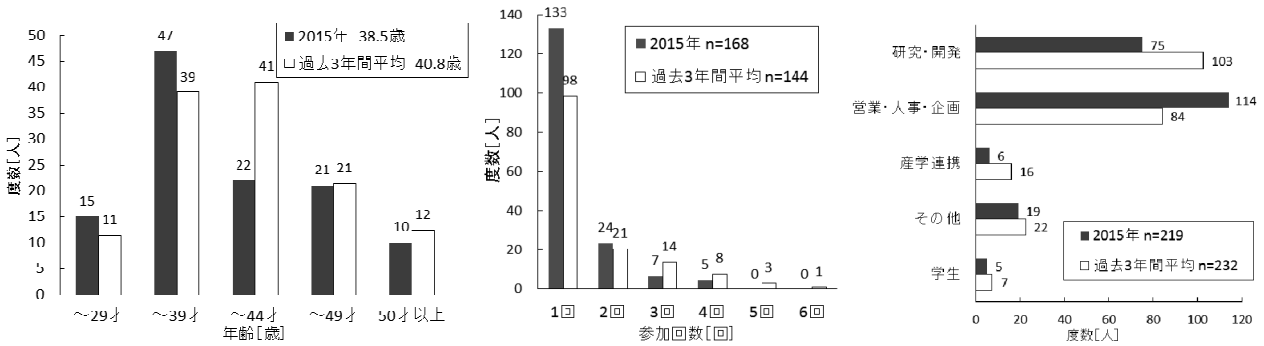
	日時	場所	全体		企業			大学			
			総数	新規	社数	人数	新規	校数	人数	ｺｱﾒﾝﾊﾞｰ除く	新規
第 19 回	5/27	中経連	38	15(39%)	16	23	14(60%)	12	15	3	1(6%)
第 20 回	7/28	中経連	42	8(19%)	16	30	7(23%)	8	12	6	1(8%)
第 21 回	9/25	中経連	51	14(27%)	26	41	11(27%)	3	10	6	3(30%)
第 22 回	11/26	名古屋大学	29	12(41%)	14	25	11(44%)	2	4	2	1(25%)
第 23 回	1/28	中経連	26	9(35%)	7	16	6(38%)	7	10	5	3(30%)
第 24 回	3/23	中経連+名古屋市内	33	16(48%)	15	24	14(58%)	6	9	4	2(22%)
計			219	74(34%)	94	159	63(40%)	38	60	26	11(18%)

※過去４年間の参加者累計：923 名　　平均年齢　38.5 歳



（ａ）年齢構成　　（ｂ）参加回数　　（ｃ）職種構成

図２　参加者属性



（ａ）年齢構成　　（ｂ）　参加回数　　（ｃ）職種構成

図３　参加者属性（27 年度と過去３年間の平均と比較）

２）構成（講演、話題提供および企画イベント）

フォーラムはコアメンバーによる講演、懇親会を柱とし、その他、参加者の見聞を広めることを主眼とした企画イベントを都度織り込んだ構成とした。

毎回、２～３名コアメンバーが、講演の他、グループディスカッションやワークショップを通してご自身の研究内容を紹介した。企画イベントは、企業等からの話題提供や、大学等の施設見学会を行った。

表４　プログラム一覧

		講演・話題提供タイトル等	講師
第 19 回	講演	なぜ“昇龍道ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ”が大切なのか？～日中関係の現状と課題、政治の視点から～	愛知県立大学 外国学部中国学科 准教授 鈴木　隆　氏
		ｹﾞﾉﾑ情報ﾋﾞｯｸﾞﾊﾞﾝ！～次世代ｼｰｸｴﾝｻｰがもたらす新たな技術･医療･ｻｰﾋﾞｽとは～	豊橋技術科学大学 環境・生命工学系 助教 広瀬　侑　氏
	講演＆ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ	人々に驚きと感動を与える(「すごいね」を連発させる)「ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ」とは何か	名古屋経済大学 経営学部 准教授 徐　誠敏(ソ ソンミン)氏
第 20 回	講演	「和紙」伝統技術とその可能性　～三河森下紙の復興と地域創生～	愛知県立芸術大学 美術学部ﾃﾞｻﾞｲﾝ・工芸科 ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻 教授 柴﨑　幸次 氏
		高速道路会社が主体となった 鉄道貨物輸送の利用	大同大学 情報学部総合情報学科 経営情報専攻 准教授 小澤　茂樹　氏
	講演＆ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ	ポッカサッポロのエリアブランディング	ﾎﾟｯｶｻｯﾎﾟﾛﾌｰﾄﾞ＆ﾋﾞﾊﾞﾚｯｼﾞ㈱ 名古屋戦略部 稲垣　和志　氏 名古屋市立大学 経済学研究科 講師 山本　奈央　氏
第 21 回	講演	植物や昆虫の手足などの生物と同じ構造を持った先端材料～”強さとしなやかさ” を持つ「傾斜機能材料」～	名古屋工業大学 工学研究科 おもひ領域 准教授　佐藤　尚　氏
		ロボット技術の歴史と最前線　～産業から社会に広がる応用～	愛知工業大学 工学部電気学科 准教授　道木　加絵　氏
	講演＆ 話題提供	RoboCup の面白さと難しさ	愛知工業大学 情報科学部情報科学科 教授　伊藤　暢浩　氏
		ロボット分野におけるトヨタの取り組みについて	トヨタ自動車株式会社 パートナーロボット部 製品設計室長 菅　敬介　氏
第 22 回	講演	交通社会資本をどう整備・維持していくのか	名古屋大学 未来社会創造機構 特任准教授　金森　亮　氏
		正面から考えるＴＰＰ	名古屋学院大学 経済学部 准教授　黒田　知宏　氏
	見学会	名古屋大学　減災館	
第 23 回	講演	次世代の扉を開く超伝導 ～超伝導材料の応用を通して環境問題を考える～	名城大学 理工学部応用化学科 助教　池邉　由美子　氏
	講演＆ ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ	線虫による生物農薬開発 ～寄生虫で害虫駆除ができるのか～	中部大学 応用生物学部環境生物科学科 講師　長谷川　浩一　氏
		身体表現の可能性 ～身近な自己表現から舞台芸術へ～	中京大学 ｽﾎﾟｰﾂ科学部ｽﾎﾟｰﾂ教育学科 講師　和光　理奈　氏
第 24 回	見学会	名古屋港内（船上から、各埠頭、高潮防波堤、岸壁等を見学）	
	講演＆ ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ	私たちは、いつもどれくらいの塩を摂取しているの？	金城学院大学 生活環境学部 食環境栄養学科 講師　清水　彩子　氏

３）フォーラムの雰囲気

○第 19 回

鈴木 准教授
（愛知県立大学）

広瀬 助教
（豊橋技術科学大学）

徐 准教授
（名古屋経済大学）

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝの様子

○第 20 回

柴崎 教授
（愛知県立芸術大学）

小澤 准教授
（大同大学）

山本 講師
（名古屋市立大学）

（上：大学・企業の PR コーナー）
（下：ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝの様子）

○第 21 回

佐藤 准教授
（名古屋工業大学）

道木 准教授
（愛知工業大学）

懇親会の様子

○第 22 回

金森 特任准教授
（名古屋大学）

黒田 准教授
（名古屋学院大学）

減災館を見学
（於：名古屋大学）

○第 23 回

池邉 助教
（名城大学）

長谷川 講師
（中部大学）

和光 講師
（中京大学）

（上：講演の様子）
（下：ワークショップの様子）

○第 24 回

清水 講師
（金城学院大学）

名古屋港内を船上から見学

（上：ワークショップの様子）
（下：懇親会時の研究紹介）

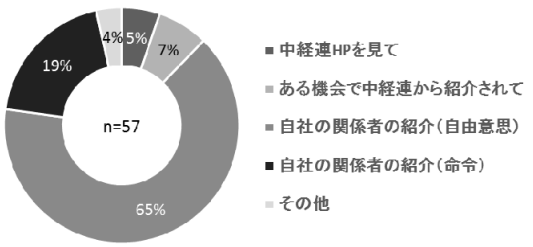
図４　フォーラムの様子

３．参加者の声（アンケート結果まとめ）

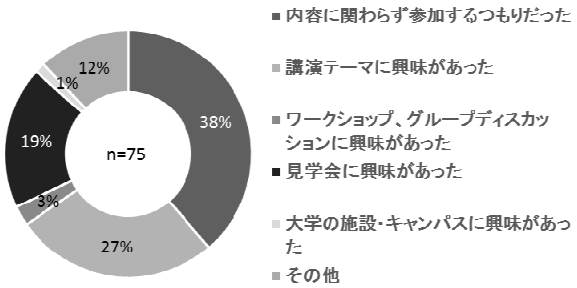
１）参加のきっかけ、目的

参加募集は、会員企業へのチラシ郵送、メールマガジン、参加履歴のある方へのメールでのご案内などで行っており、参加者全体の３割の方が新規で参加している。きっかけとしては、社内の関係者からの紹介が８割を占めているが、業務命令としてではなく自由意思で参加する方が多い。また、２回以上参加されている方は、「内容に関わらず参加するつもりでだった」が４割弱を占め、次いで「講演テーマに興味あった」が２割弱となっている。多くの方は、普段触れることができない知識や新たな気づきを得るために、高い目的意識をもって参加している。

また、参加にあたっての目的・期待としては、「交流」がトップで、次いで「知識・教養のため」となっている。今年度は、参加者の多くが「人的ネットワークの形成」や「多様な価値観に対する気づき」等が得られる場として、フォーラムに参加している。

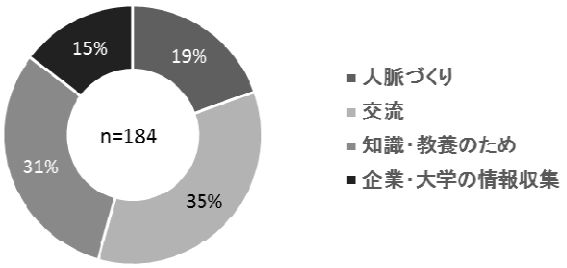


（ａ）初参加の方



（ｂ）２回以上参加されている方

図５　参加のきっかけ



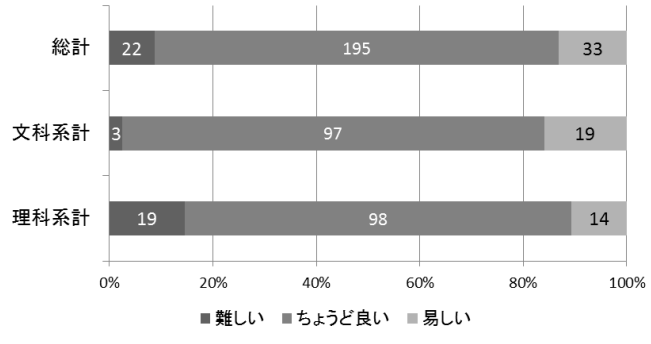
（ｂ）参加の目的・期待

図６　参加の位置づけ、狙い

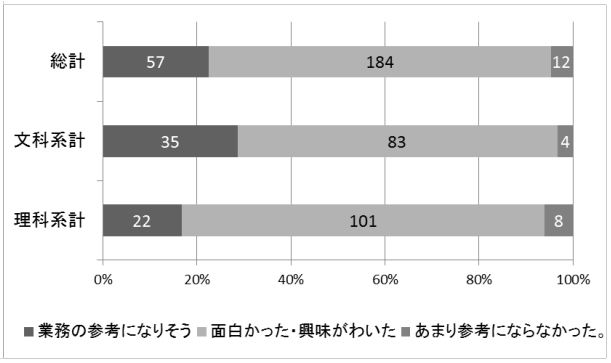
２）講演への意見

講演は文科系・理科系のコアメンバーより、多岐にわたる研究分野を紹介して参加者に多くの気づきを提供した。

講演の難易度は、理科系において１割の方から「難しい」という回答があったが、全体では約８割の方から「ちょうど良い」という回答を頂いた。また、講演の感想は、「業務の参考になりそう」「面白かった・興味がわいた」という回答が９割に上り、専門外の分野でも多くの参加者がコアメンバーの研究内容について理解を深めた。自由意見では、講演自体の面白さ・興味深さの他に、今後の研究成果への期待、発送の転換など、数多くの高評価を頂いた。



（ａ）講演の難易度



（ｂ）講演の感想

（ｃ）自由意見（○：企業の意見　●：大学の意見）

＜異分野の講演は興味深い、勉強になった＞

○地域の良さを再発見できてよかった。地域の活性化の手法の一つとして参考になった。和紙への興味が湧くとともに、地域の伝統・文化をもっと知るべきと感じた。

○興味を持ちやすい動植物の構造から、その特性、それを実現するための作成手法と、風力発電の軸受けを目指すというストーリーが、専門分野外でも非常に分かりやすく聞くことができました。

○超電導について、非常に平易な表現での説明であり、大変参考になりました。一般の方から質問を受けた場合、今回の講演で伺ったような内容を説明することで、説明責任を果たしていきたいと思います。

＜今後の取り組みに期待＞

●新たな医療サービスとして、新生児の出生前診断が挙げられていましたが、現状ではまだ一部の機関でしかサービスを受けることができず、価格も高いと感じます。シークェンサーの価格は三千万円とも聞きましたので、ニーズ（需要）に供給が追いつかないという点が今後どの程度解消されるのかが気になりました。

○教育と地域振興ビジネスの協業、というテーマだったと思いますが、「経済効果は？」という質問をされた方がいらっしゃった通り、まだ教育の枠から抜け出せていない印象を得ました。和紙の顕在ニーズとのマッチングではなく、潜在ニーズの発掘が必要だと感じます。

○ロボットについて詳しくない人にも大変わかりやすい講義でした。これまで身近にあるロボットはアイデア重視の要素が強いイメージであったが、今後の展望は実用性が求められていくということで自然災害の多発や少子高齢化の現代において重要な分野であることを強く感じました。

＜新たな発想・気づきを得た＞

○イノベーションとは難しいものではなく、身近にあるものと改めて認識しました。危機感、変化を恐れないことが大事だと改めて認識しました。ただ、危機感を常に感じること、変化を恐れないことは言うは易し行うは難しだと思います。どうしたら、行動に移せるか考えて行きたいです。

○色々な目線で物事をとらえることが大切だと感じました。新しい事を始める事の難しさを感じました。

＜もう少し詳しく聞きたい＞

●「小原和紙=文化」に対して、「三河森下紙=(和)紙の一種」というところが、最後にはわかるのですが、途中ではなかなかそれがわからず少し混乱がありました。単に和紙と聞くと「紙の一種」という先入観があるからでしょうか。

○超伝導体の基礎的なところから分かりやすく講演いただき、非常に勉強になりました。超伝導には極低温が必要なため、生活や産業に導入されるイメージがつきにくかった。未来の社会の図が実現するための、課題や困難な点についても触れて欲しかった。

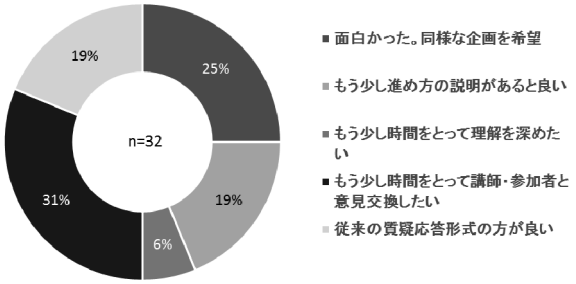
○すぐ横で買える物をネットで買ってしまうことで、遠方から荷物が届く不思議な時代になってしまいましたが、これで経済が動いている部分もあると思うので、物流は複雑だなと思いますが、日本には日本の特徴があるだろうから、そこの所の話しが聞きたかったです。

図７　講演への意見

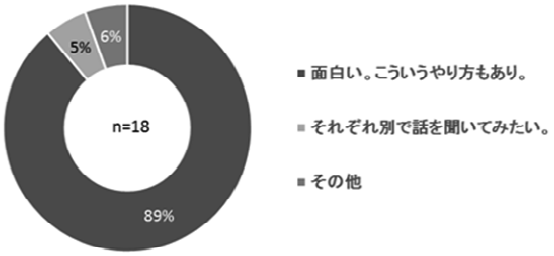
３）グループディスカッション・ワークショップへの意見

今年度より、グループディスカッション(第 19 回、第 20 回)や、ワークショップ(第 23 回、第 24 回)を積極的に取り入れ、参加者同士の会話・交流を促すきっかけづくりに努めた。グループディスカッションでは、面白かったという意見が２割あり、同様な企画を希望する等といった意見を頂いた。一方で、「もう少し時間を取って意見交換をしたい」「もう少し進め方の説明があると良い」という意見を多数頂いた。特にディスカッションの時間確保について指摘があり、その後の企画立案の参考とした。この中で、第 20 回はコアメンバーと企業参加者との共同発表による形式で行ったが、多くの方から好評を得た。

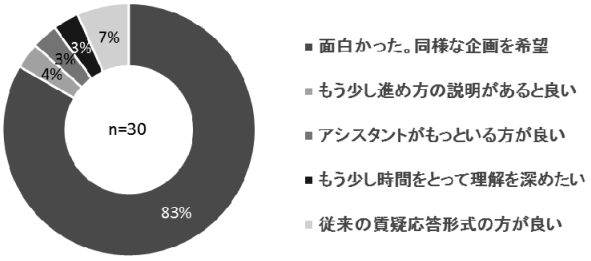
ワークショップでは、面白かったという意見が８割を占め、多くの方に好評を頂いた。自由意見では、「身近な話題をテーマにした講演は会話のきっかけづくりによい」「身体を動かす今回のような講演もあり」等といった意見を頂いた。



(a) ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ感想（第 19 回、第 20 回の合計）



(b) コアメンバーと企業参加者との共同発表（第 20 回）



（ｃ）ワークショップ感想（第 23 回、第 24 回の合計）

（d）自由意見（○：企業の意見　●：大学の意見）

【グループディスカッション】

＜興味深い・勉強になった＞

○普段の業務の中で、一般消費者をターゲットとしたサービス・商品を扱っていないが、ディスカッションを通じて、自社のサービス活動のやり方の工夫や商品の活用によって、地元地域の一般の方々にも貢献できる可能性があると感じることができた。

＜業務の参考にしたい＞

○他業種の方のその業種なりのマーケティングについての意見をきけて参考になった。

○マーケティング方法と地域密着型というところで参考になった。

＜ディスカッションの時間が足りなかった＞

●時間が足りず、思うようにディスカッションが出来ませんでした。

○グループディスカッションの時間が 10 分ほどでしたが、もう少し時間があると議論をより深められたかと思いました。

【ワークショップ】

＜興味深い・勉強になった＞

○自己紹介ダンスを体験してみて、日本人が苦手な自己表現や積極性が養われるのではと感じました。ダンスが義務教育化された理由が分かりました。最後に披露して頂いた域のダンスは、文化・芸術ですね。

○生活習慣病への関心が高まる中で、塩分の取り過ぎに対する有意義な講演であったため、大変参考になりました。講演の冒頭で塩味、甘味、旨味などの「味見」がありましたが、最初は味の違いが全くわかりませんでした。私は普段から外食が多いため、濃い味に慣れてしまっていて、結果として塩分を取り過ぎている自分に気が付きました。今後は減塩食品を積極的に選びたいと思いました。

＜会話のきっかけ、話題づくりによいテーマ＞

○今回の塩の話のような身近な話題は、人脈作りのための会話のきっかけとして、非常に良いと思います。

○業務とは関係のない内容になりますが、新たな知識を得る事により、話題づくりにもなりますので、内容は問わずに次回も聞いてみたいと思いました。

＜今回のような講演もあり！＞

○体を動かすことは、懇親会でもテンションがあがり、よかったと思います。

＜もう少し試してみたかった＞

○健康に関することですので、年齢的に大変興味がありました。少し、女性向けかなと思いましたが、もう少しワーキングを盛り込んだ内容だと、男性ももっと楽しく聞けると思います。

図８　ワークショップ・グループディスカッションへの意見

（ｅ）グループディスカッションの様子

グループ毎に座って
意見交換を行う参加者

模造紙に意見を書き込む参加者

図９　左写真（第 19 回フォーラム）、右写真（第 20 回フォーラム）

（ｆ）ワークショップの様子

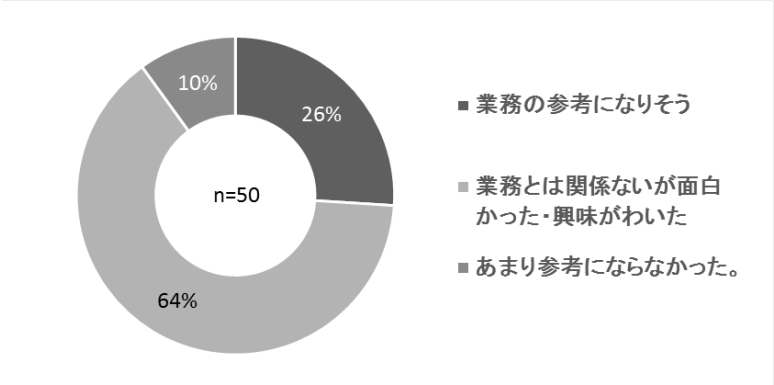
ペアを組んでダンスによる
身体表現を体験する参加者

カップに入った水溶液の
味覚チェックを行う参加者

図 10　左写真（第 23 回フォーラム）、右写真（第 24 回フォーラム）

４）話題提供（企業・大学）への意見

話題提供は、フォーラムに参加する企業・団体の方々からお話しして頂いている。第 21 回では、企業、大学(コアメンバー以外)よりお話ししていただき、多くの参加者から好評を得た。参加者からは、今後の取り組みに期待する声を含めて、以下のような意見を頂いた。



（ａ）見学会の感想

（ｂ）自由意見（○：企業の意見）

＜興味深い、勉強になった＞

○現状の技術開発状況や進歩等、参考になりました。講演、ありがとうございました。

○移動手段を軸に、その技術を姿勢訓練やリハビリテーションに応用したという技術開発の流れについて紹介いただき、非常に興味深く聞かせていただきました。特に、歩行練習における現状の課題を解決する形の技術開発は、とても勉強になりました。

＜今後の取り組み・実用化に期待＞

○ロボカップについて実際の映像を使っての講演でわかりやすかったです。2050 年までにサッカーでロボットが人に勝つという目標は、はじめは難しいだろうと感じましたが、これまでのロボット技術の変遷を見て、将来のさまざまな可能性を感じました。若い世代の人たちがロボカップを通じて、将来のロボット研究分野で活躍できることを願っています。

○リハビリテーションの形を難しいと考えている。家庭で実用化される片づけなどが代行できるロボットについても、これから女性活躍推進や少子高齢化などにおいて役立つことが期待できる事業であり、大変興味深かった。

＜講演内容を業務に活かしていきたい＞

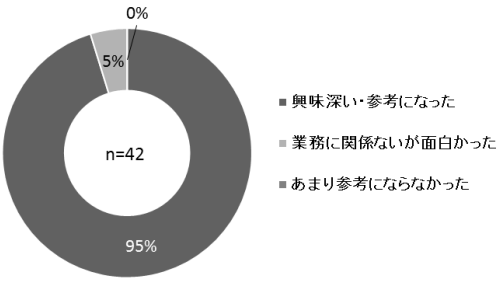
○介護業界向けの取組、非常に参考になりました。現段階での業界向けロボットの取組、行政の対応状況等、今後の営業展開に向けた方向性を確認する上でも参考になりました。講演、ありがとうございました。

図 11　話題提供への意見

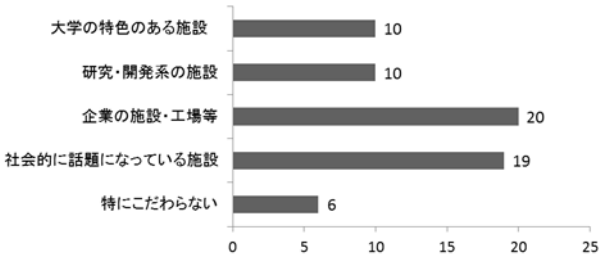
４）見学会への意見

今年度は、大学での開催として、名古屋大学・減災館（第 22 回）において、施設見学会を併せて実施した。また、特色ある施設として、名古屋港(第 24 回)を船上から見学する等、中部圏の防災・物流機能強化に向けた取り組みを中心に、参加者の見聞を広める企画を実施した。

参加者からは、「興味深い・勉強になった」という回答が多数を占め、今後も「企業の施設・工場等」「社会的に話題になっている施設」を見学したい等、継続を希望する回答を頂いた。その他、自由意見では、「今度改めて時間をかけて見たい」「貴重な経験ができた」という意見が数多く寄せられた。



（ａ）見学会の感想



（ｂ）今後、見学したいもの

（ｃ）自由意見（○：企業の意見　●：大学の意見）

＜興味深い、勉強になった＞

○弊社も防災に力を入れており、災害への備えについて大変参考になりました。本当にありがとうございました。

○地震を正しく恐れて適切に対応しなければならないこと。備えが必要であることなど再確認できた。

○海上から名古屋港を見学して、陸上からでは気づかなかった点および説明者の説明を伺うことで、名古屋港近郊の理解を深めることができました。今回の見学が実務に直結する内容ではないものの視野拡大の意味を含め、非常に有意義な見学会でした。

○普段なかなか見ることのできない港湾施設を海上から見学させて頂き、非常に勉強になりました。中部地方の物流、観光の玄関口の「現状」を知ることは、今後の業務に大いに役立つものでした。

＜もっと時間をかけて見たい、改めてじっくりと見てみたい＞

○災害に対しての意識を高めることが出来て非常に面白く恐ろしかったです。時間をかけて見学しなおしたいと思いました。

●改めてじっくりと見学してみたいと思いました。

＜他の人と情報共有したい＞

○このような取り組みがあることを知ることができたので、会社に戻り、情報共有したいと思いました。

○この施設の存在を知らなかった。会社の人や家族を連れてじっくり見学させていただきたい。

＜貴重な経験ができた＞

○海側から港湾施設を見学するのは、港湾機能のイメージがわき、大変得難い経験であり、ありがたかったです。

○中部経済の原動力は、自動車産業や航空機産業にあるといわれていますが、名古屋港に浮かぶ巨大な自動車運搬船やコンテナ船などを海上から見ることで、実感を新たにしました。また、今まで発電所や製鉄所などの施設を陸上から見ることはあっても、海上から見る機会は初めてだったので、大変参考になりました。

＜また企画してほしい＞

○港内見学会は現物を見ながらご説明を拝聴でき、ご説明もわかりやすく、港湾での物流、各埠頭の位置づけ等、大変勉強になりました。私は製鉄所勤務ですが、海側から工場を見るのは初めてであり、貴重な体験をさせていただきました。可能でしたら、毎年恒例にしていただきたいと思います。

図 12　見学会への意見

（d）見学会の様子

地震再現ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝを体験する参加者

免震装置をガラス越し見学する参加者

図 13　第 22 回フォーラム（名古屋大学・減災館）

船内で説明を受ける参加者

甲板に出て港内の様子を見る参加者

図 14　第 24 回フォーラム（名古屋港内を船上から見学）

６）その他自由意見

図 15　自由意見（○：企業の意見　●：大学の意見）

＜有意義な時間が過ごせた＞

○普段なかなか接する機会のない異分野の方々のお話、大変興味深く聞かせていただきました。またグループワークでは短い間ではありましたが、よい交流の場となりました。ありがとうございました。

○専門的な講義内容について、わかりやすく面白くお話ししてくださったのでロボット技術を少し身近に感じることができました。若い世代の車ばなれ、機械ばなれが進んでいることから、このような機会がもっと多くの人に広がっていけばより良いと思います。また是非参加させていただければと思います。有難うございました。

●私たちの研究について社会人の方々に貴重な意見を頂けたので、今後につなげていきたい。また、講演会はとても興味深い内容を聞くことが出来た。社会人になった時にまた参加したいです。

＜全体構成に配慮を＞

○盛りだくさんで少し消化不良の部分もあるかもしれない。今回はテーマが３．５個あった感じなので、せめて２つくらいに絞った方がいいのでは、と感じた。でも、みなさんそれぞれヒントを得るためにきているのでは、と考えると情報提供的な今回のボリュームもありですね。

○各講演時間が短いのではないかと感じました。講演者が焦らずできる時間、講演数を検討してみてはいかがでしょうか。

●スケジュールがタイトであったと感じます。フロアからの質問がほとんどありませんでしたが、時間的な遠慮もあったかもしれません。

＜講演時間・内容に工夫を＞

○先生の発表を少なくして、企業の時間を増やしたらどうか。官の人も講師にしたらよい。

○講義・セミナー時間をもう少しゆったり取って内容を深堀して頂けると助かります。

＜参加者を広く呼び掛けてほしい＞

○もっと複数の企業からの参加があると、交流・人脈作りにより繋がると感じます。

○参加者の幅が広いともっとよくなるのではと感じましたので、広報に力を入れられるとよいと思います。弊社の若手も、機会をとらえて出席させたいです。

＜予定変更を事前に教えてほしい＞

○予定されていた講演がキャンセルになったことが残念でした。できれば、当日の講演開始前に情報提供していただけるとありがたいと思いました。

○講演が中止になる事が数日前でも事前に分かっていたのであれば、参加者にも事前に案内していただいた方が良かったと感じました。

７）運営面の改善

①開始時間

今年度より、開始時間を１時間遅らせて 18 時としたところ、６割の方から「今ごろの時間帯でよい」との回答を頂いた。

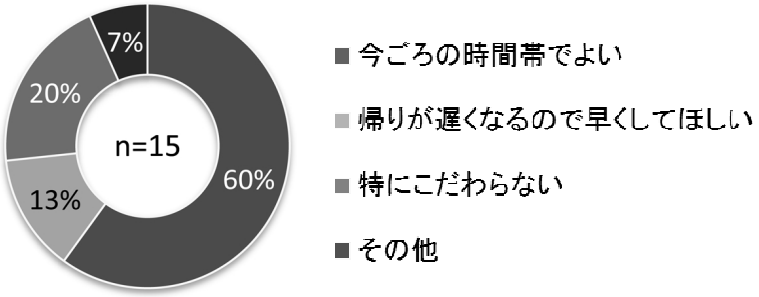


図 16　開始時間について

②会の始めからの飲食提供

フォーラムの雰囲気が和むように、会の始めから飲食を提供して、参加者に参加していただいたところ、７割の方から、「リラックスした雰囲気で始められるので良い」との回答を頂いた。

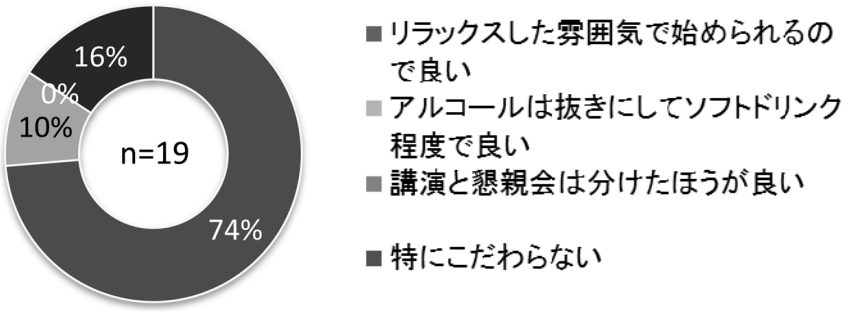


図 17　飲食の提供について

③懇親会時のＰＲコーナー、講師の研究紹介

今年度より、参加者同士の会話・交流のきっかけづくりとして、懇親会時に自社の取り組みをＰＲできるコーナーを設けたところ、８割の方から「参加者との会話のきっかけになるのでよい」「自社のＰＲの場として活用したい」という回答を頂いた。

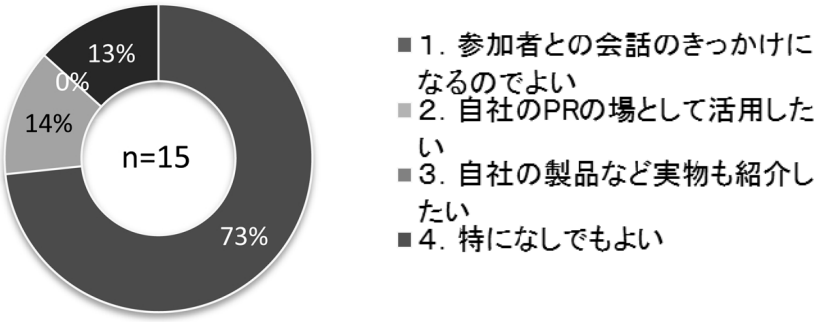


図 18　ＰＲコーナーの設置について

講演後に講師の研究内容を更に深めるために、第 21 回、第 24 回では、懇親会で講師や学生による研究紹介のスペースを設けたところ、８割の方から「講師の研究内容について理解が深まるのでよい」「講師との意見交換のきっかけになってよい」という回答を頂いた。

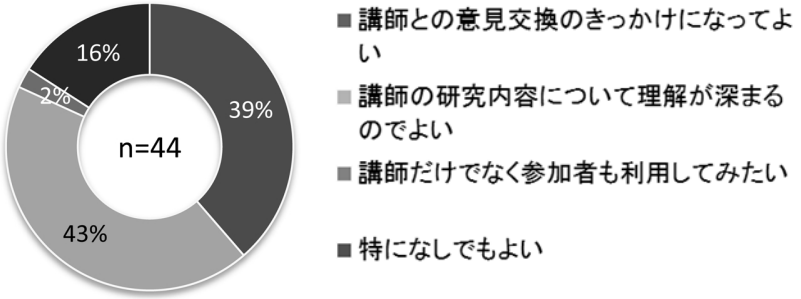


図 19　懇親会での研究紹介について

④チラシデザインの改訂

フォーラム開始から４年目を迎え、更に多くの方の参加を促すため、かつ目が止まるようチラシデザインを全面改訂した。

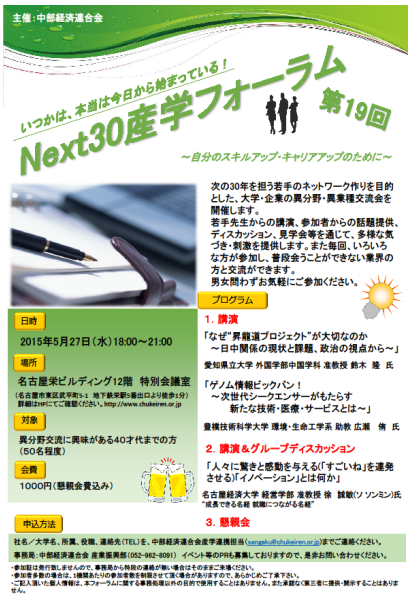


図 20　改訂前のデザイン（左図）、改定後のデザイン（右図）

８）満足度

約５割の方から「ぜひ次回も参加したい」と評価を頂いた一方、「テーマによって参加する」と回答した参加者が約半数を占めた。今後より多くの参加者を募るため、参加者からの意見を取り入れかつ興味を引きつける企画を立案していくことが大きなポイントとなっている。

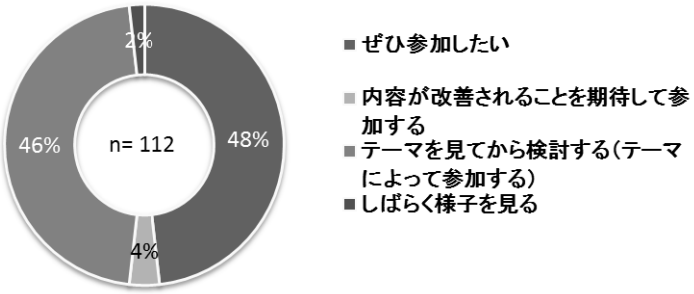


図 21　次回への参加意欲

４．フォーラム活動から派生した事例

本フォーラムは、即物的な成果を求めないというスタンスで実施しているが、今年度に実施した活動から自発的に派生した事例を紹介する。以下は、参加者からの依頼で事務局が関係者を紹介したものや、参加者からのヒアリングで得た情報などであるが、こうした事例は一部であり、実際にはより多くの事例が存在すると考えられる。

図 22　派生した事例（一部）（○：企業の意見　●：大学の意見）

●フォーラムでの講演後、企業から共同研究のお話があり、今後の協力体制について調整している。
●学会において異分野交流の場があり、Next30 産学フォーラムのつながりで、コアメンバーご本人やそのお知り合いの方にご参加いただいた。
●フォーラムに参加している企業から、大学に求人を頂いた。
○フォーラムに継続して参加するようになって、講師や企業の方と相談する仲になった。
○都合がつく限り参加しているが、情報交換および人脈形成につながっている。
●フォーラムでの講演後、他大学の先生より講演依頼を受けた。
○仕事で以前にお会いさせて頂いた方に、フォーラムで偶然お会いでき、非常に有意義な会だった。

５．総括

2015 年度は、前年度から引き続き各大学の特色ある学部の先生をお願いし、異業種・異分野の方にも分かるよう平易な内容にして講演を提供した。また、グループディスカッションやワークショップを積極的に取り入れ、懇親会時の大学・企業ＰＲコーナーを設ける等、参加者同士の会話・交流を促す仕掛けづくりに取り組んできた。本フォーラムを立ち上げて３年が経ち、参加者数が減少傾向にあった中で、参加者からのニーズを受けた多様な企画を実施できたことが、参加者数の持ち直しにつながったものと思われる。

一方で、講演数の多さやディスカッションの時間確保、あるいは大学だけでなく企業等からの話しも聞きたい等、プログラム構成や講演時間・内容に関するご指摘が相次いだ。参画する大学の増加に伴い、限られた時間内で講演を提供する形になっていることから、今後、大学数の増加を見据えたフォーラム運営のあり方を考慮する必要性を感じた１年であった。

2016 年度は、１大学が増え、19 大学でコアメンバーを構成して本フォーラムを開催する予定である。引き続き、コアメンバー講演の他、グループディスカッションやワークショップ等、参加者同士の会話・交流を促す仕掛けづくりを取り入れていくとともに、限られた時間内でも企業等からの情報発信の機会を設ける等、産学の相互理解の更なる促進につながる企画を実施していく予定である。今後も参加者の意見を取り入れながら内容をブラッシュアップし、幅広く参加者を募りながら、即物的な成果を目的とした取り組みとは一線を画した、緩やかな連携・交流の場としてフォーラムを発展・成熟させていきたい。

以上

2016 年 6 月

一般社団法人中部経済連合会
〒461-0008　　名古屋市東区武平町 5-1
名古屋栄ビルディング 10 階
TEL：052-962-8091　FAX：052-962-8090